



きゅうしょうじ 久昌寺

基本データ 住所：常陸太田市新宿町 239

公開時間	駐車場	写真撮影	スタンプ	トイレ	雨天時の 展示物変更
15 時 30 分まで	○	×	○	○	あり

※ 一部の文化財は、普段は公開していません。

解説動画 ※通信料がかかります

【文化財解説（久昌寺）】水戸黄門ゆかりのお寺と文化財をご紹介します！



久昌寺の来歴

延宝 5 年（1677）、水戸藩 2 代藩主徳川光圀が生母（谷 久子）の菩提を弔うために建立した日蓮宗の寺院です。

久子の法号である「久昌院」が、久昌寺の名の由来です。当初は現在の稲木町にありましたが、版籍奉還により取り潰しとなり、明治 3 年（1870）に現在の場所にあった久昌寺の末寺・蓮華寺と併合することで再建されました。

久昌寺の文化財

○ にちじょうにつき 日乗日記 県指定文化財（昭和 56 年 12 月 24 日指定）

久昌寺の摩訶衍庵に住した日乗が、元禄 4 年（1691）1 月 1 日から元禄 16 年（1703）2 月 15 日までのほとんど毎日を記録した日記で、美濃判 2 つ折り全 13 冊 1,041 枚からなっています。

日乗は字を慈性、皆如院と号し、慶安元年（1648）11 月 18 日に京都に生まれ、京都深草の元政上人に学び、延宝 5 年に久昌寺に招かれました。西山荘に隠居していた光圀と交流し、西山荘をしばしば訪ね、領内の巡検に同行するなどしています。この日記から光圀の西山荘隠居後の生活の様子を知ることができるほか、元禄時代の世相風俗や生活の実態、気象などといった豊富な記録に満ち溢れた貴重な資料ともいえます。

○ もくちょう ぎこうめん 木彫義公面

市指定文化財（昭和 42 年 8 月 31 日指定）

徳川光圀（義公）の面で、現在 3 面が残されています。「御年二十歳」は縦 18.2 cm・横 11.7 cm で太田九蔵作、「御年三十



木彫義公面

歳」は縦 18.5 cm・横 13.5 cmで前田介十郎作、「御年五十歳」は縦 22.0 cm・横 14.0 cmで太田九蔵作です。作られた時期は分かっていませんが、作者の太田九蔵と前田介十郎はともに光圀の近臣で、幕末に立原杏所の描いた絵図には、太田九蔵は西山荘の近くに住んでいたことが記されています。

○ みんほんだいぞうきょう 明本大蔵 経

明の時代の万暦 40 年（慶長 17 年・1612）の作で、1,980 冊が現存し、桐の経櫃 48 個に納められています。元禄年間に徳川光圀が久昌寺に納めており、「久昌寺経蔵開山檀那源光圀置」の朱印があります。経櫃には佐々宗淳の筆による題目等が記されています。

○ 久昌寺本堂

間口 8 間、奥行 7 間の当時の寺院としては珍しい鉄筋コンクリート造で、太田出身で函館に渡って商売で大成功をおさめた梅津福次郎の 65,000 円の寄付により建てられました。久昌寺は梅津家の菩提寺であり、日蓮宗を厚く信仰した福次郎は、宗祖 650 年忌大法会と祖先の供養、そして自らの渡道 50 周年を記念して、本堂・書院・庫裏の新築のために寄付を決めています。本堂は昭和 4 年（1929）11 月 20 日に起工し、翌年に竣工、6 年 11 月 22・23 日に入仏供養が行われました。施工は東京の神田明神や上野の東照宮、函館の本願寺別院などを手掛けた木田組（木田安造）で、設計は青地安太郎が担当しています。本堂中央の天蓋と瓔珞一對は梅津福次郎が本堂の落成にあわせて寄進したもので、平成 3 年（1991）に福次郎没後 50 周年を機に子孫の手で改修されました。本堂裏には梅津家の墓所があり、本堂前には建築を記念した「逾久逾昌」と題した頌徳碑が残されています。

○ 義公廟

本堂裏の高台にある義公廟は、徳川光圀（義公）の遺徳を顕彰するために、当時の太田町有志によって建設が計画され、昭和 16 年（1941）に建立されました。廟内には光圀が亡き母の供養のために板絵 30 枚に書写した法華経 10 巻と母の毛髪を納めた宝塔が安置されています。

○ 光圀公尊像

水戸藩 3 代藩主徳川綱條が制作を命じた陶像で、支藩（高松藩・守山藩・府中藩・宍戸藩）に分け与えたとされ、久昌寺には 2 体残されています。

像の底面には、綱條がこの像を作らせた経過とその思いが刻まれています。（右のとおり）

右
先考義公尊像其面容
公親命工所刻拜之儼然如存綱條不勝
哀泣敬繕完之安置常陸久慈郡稲
木邑久昌教寺希使子孫仰慕
盛徳之餘烈
元禄十四年辛巳十一月二十八日
孝子参議綱條百拝

○ 扁額

まかえんあん
「摩訶衍庵」 …子龍（水戸藩 2 代藩主徳川光圀）筆
さんまいこうどう
「三昧講堂」 …景山（水戸藩 9 代藩主徳川斉昭）筆

